

令和6年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

ふ り が な	ふくしまけんりつふたばしえんがっこういてんしんちくこうじ
1. 事業(施策)の名称	福島県立ふたば支援学校移転新築工事
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	令和5年7月10日 ～ 令和6年12月27日
3. 事業費(工事費)	3,911 百万円
4. キーワード	復興、支援学校、官民連携、BIM、共創
5. 事業概要	本事業は、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故の影響により、いわき市に避難を余儀なくされている双葉地域における特別支援教育の基幹校であった富岡支援学校(現:ふたば支援学校)の移転新築工事である。 双葉地域における特別支援教育の再生を象徴する建築物として、地域の教育振興と住民の帰還を支える重要な役割が期待され、令和6年12月23日に竣工、令和7年1月から新校舎で学校運営を開始する予定である。

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(a)新しい建設技術	(c)情報発信 (d)イベントの開催
アピールする 2)「秀でた成果」	(d)生産性の向上 (k)施工の合理化・効率化	(f)地域の活性化 (i)その他(生徒との「共創」) (i)その他(官民連携による建設業の魅力発信)

7. 特にアピールしたい
○生徒との共創: 施工段階から在校生徒とのつながりを意識し、生徒が描いたイラストを仮囲いに掲示したり、作業員向け現場モニターに学校紹介の映像を流したりすることで、施工者に施設利用者を身近に感じてもらい、作業への意識向上を図った。 また、生徒や教職員向け現場見学会を開催するとともに、昇降口の木パネル施工に生徒自身が携わることで、新校舎への愛着を育むとともに、新しい学校生活への期待を膨らませる機会を設けた。 ○官民連携による建設業の魅力発信: 建設業協会や地元高校生を対象に見学会や施工体験を実施し、建設業の魅力を広くアピールした。また、管内建設業協会や市町村に対して現場研修会を開催することで、官民連携を促進し、地域の活性化にも寄与した。



8. 事業を代表する写真及びキャプション

①旧富岡支援学校
(富岡町)



避難

②ふたば支援学校仮設校舎
(いわき市)



移転

③ふたば支援学校新校舎
(檜葉町)



航空写真(南東方向から望む)

- ① 東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故の影響により、避難
- ② 平成24年4月にいわき市にある聴覚支援学校平校敷地内に仮設校舎を設け、全校生32名での学習開始。
- ③ 令和6年12月、檜葉町に移転新築

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法等)〕

【工事概要】

1. 建物名称 : ふたば支援学校
2. 規模構造 : 地上3階建て 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
3. 面積 : 敷地面積: 15,451.94㎡、建築面積: 4,689.34㎡、延べ面積: 8,432.37㎡



中庭

アリーナ

水治訓練室

オープンスペース

教室

全景写真(南東方向から望む)

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

【(①)—(a)—(k)】

(施工の合理化・効率化)施工 BIM の活用について

今回の現場では、BIM(Building Information Modeling)を積極的に活用し、施工の効率化と品質向上を図った。配筋の納まりや設備工事との取り合いについては、3D モデルを用いて事前に確認することで、計画段階から問題点を明確にし、スムーズな施工を実現した。



【(①)—(a)—(d)】

(生産性の向上)ICT重機の活用について

土工事では、BIM データを ICT 重機と連動させ、掘削レベルを自動制御することで、高い精度と効率性を両立した。この取組により、作業時間の短縮や確認手間の省力化を達成し、施工全体の生産性を向上させることができた。



【(②)—(d)—(i)】

(生徒との共創)木製パネルワークショップ

校舎完成後、生徒が新しい学校に愛着を持って利用してもらえるよう、ふたば支援学校の児童・生徒を対象に木製パネルの施工体験を実施した。このワークショップでは、4色の県産材の木タイルに夢や目標、イラストを自由に描き、接着剤を使って木板に貼り付けることで、オリジナルの木製パネルを製作した。

完成したパネルは、学校の昇降口に設置され、新しい校舎の一部として形に残るものとなった。この取組を通じて、生徒はものづくりの楽しさや達成感を実感し、自ら製作した作品が学校の一部になるという特別な経験を得るとともに、校舎での生活に対する期待やイメージを膨らませる機会になった。



【(②)—(d)—(i)】

(生徒との共創)生徒・学校関係者の現場見学会を実施

生徒、教職員に対して建設中の新校舎の見学会を実施した。見学会では、完成後の学校生活をイメージしながら、工事の進捗や新しい校舎の特徴を直接感じてもらった。生徒は、未来の学び舎を直に感じ、新校舎への期待を膨らませる機会となった。教職員にとっても、現場の状況を共有することで、完成に向けて意識が高まった。



【(②)—(d)—(i)】

(生徒との共創)生徒が描いたイラストを仮囲いに設置

現場出入口の仮囲いに、生徒が描いたイラストを設置し、周辺住民へのPRや現場のイメージアップを図った。

また、見学会を通じて生徒がイラストを実際に目にする機会を設け、新校舎との関わりを実感するとともに、より親しみを感じてもらった。

この取組を通じて、生徒の創造力を活かし、地域とのつながりを深めた。



【(②)—(d)—(i)】

(生徒との共創)生徒の映像を現場で上映

現場中央に設置したモニターで学校紹介映像を継続的に上映した。使い手を見える化することにより、現場作業員は施設を利用する生徒の姿を具体的にイメージし、利用者の存在を身近に感じることで、作業への意識向上に貢献した。



9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

【(2)―(d)―(i)】

(官民連携による建設業の魅力発信)高校生による建設現場での作業体験

建設業の次世代を担う人材の確保と育成を目的に、(一社)福島県建設業協会の協力のもと、勿来工業高等学校建築科3年生を対象とした現場見学会を実施した。

当日は、実際の建設現場に足を運び、鉄筋の結束作業や測量機器を使用したレベル計測など、実務に近い作業を体験してもらった。高校生が建設業の現場での作業体験を通じて、建設業の魅力や、やりがいを感じ取るとともに、建設業界が社会基盤を支える重要な役割を果たしていることを学ぶ機会となった。こうした取組は、若い世代に建設業のリアルな現場を知ってもらうと同時に、進路選択や職業観の形成にも貢献するもので、建設業界の未来を支える若者の育成に寄与することとなった。



【(2)―(d)―(i)】

(官民連携による建設業の魅力発信)相双管内建築関係現場研修会を開催

相双管内の市町村や建設業協会会員を対象に、現場研修会を実施した。研修会では、BIMなどの最新技術や提出書類簡素化ガイドラインなどの説明を行った。

また、研修会の中で、公共工事における円滑な施工確保の取組について意見交換を行い、建築業界の現状や課題、官民連携の必要性を共有した。



【(2)―(c)―(i)】

(官民連携による建設業の魅力発信)SNS(インスタグラム)等による積極的広報

発注者によるインスタグラムへの投稿や施工者によるホームページ作成など、工事の進捗状況や各種イベントを積極的に情報発信した。これにより、ふたば支援学校の現場状況や見学会などのイベントを広く周知し、工事の進行や現場の雰囲気を実タイムで伝えることができた。

この取組により、現場の魅力を効果的に伝えることができた。



【(2)―(d)―(f)】

(地域の活性化)地域イベントへの参加

檜葉町は、原発事故後に全町避難を余儀なくされ、平成27年9月に避難指示が解除されたものの、今なお地域コミュニティの醸成・維持が課題となっている。

本工事の施工者は、町が主催するソフトボール大会やクリーンアップ活動に積極的に参加し、地域コミュニティの形成に貢献した。地域に根ざした活動を通じて、町の復興を支援し、町民との信頼関係を築くことに繋がった。

